

長野県道路トンネル台帳・点検調書一覧

区分	長野県 様式	名称	内容	走行画像計測システムによる点検 (今回業務)	従来点検（別途業務）
トンネル台帳	1-1	トンネル諸元	トンネル諸元、付属施設情報		既往の点検のものを必要に応じて修正
	1-2	（坑口）状況写真、平面図	坑口写真		既往の点検のものを必要に応じて修正
	1-3	標準断面図、地質縦断面図、施工実績等	設計施工情報		既往の点検のものを必要に応じて修正
	1-4	トンネル構造・設備位置情報等	スパン長、各施設位置等		既往の点検のものを必要に応じて修正
	1-5	トンネル維持管理履歴表	維持管理情報		既往の点検のものを必要に応じて修正
点検調書	2-1a	トンネル本体工健全度集計表	健全度ランク別、変状面積集計		打音検査、健全性の診断結果を踏まえ作成
	2-1b	変状・異常箇所数集計表	健全度ランク別、変状数集計		打音検査、健全性の診断結果を踏まえ作成
	2-2	トンネル本体工覆工スパン毎変状集計表	スパン毎の健全度別、変状面積、変状数集計表		打音検査、健全性の診断結果を踏まえ作成
	2-3	トンネル内附属物異常箇所集計表	附属物健全度集計		打音検査、健全性の診断結果を踏まえ修正
	2-4	トンネル全体変状展開図	変状展開図(CAD) の貼り付け	調書（エクセル）に貼り付けるCADのベースを作成	打音検査結果等により変状展開図を修正し、調書に添付
	2-5※	トンネル変状・異常箇所写真位置図	変状写真番号と撮影位置	調書（エクセル）に貼り付けるCADのベースを作成	打音検査結果等により位置図を修正し、調書に添付
	2-6※	写真台帳（トンネル本体工変状写真）	変状写真、健全性診断結果	既往点検調書の写真の入れ替えなど、ベースを作成	打音検査、健全性の診断結果を踏まえ修正
	2-7	写真台帳（附属物異常写真）	附属物の取付状態異常箇所写真		打音検査、健全性の診断結果を踏まえ作成
	2-8	トンネル付属設備健全度評価シート	LCC計算に必要な情報を集約		打音検査、健全性の診断結果を踏まえ作成
	2-9a	付属施設状況写真（照明施設）	付属施設の外観状況写真		打音検査、健全性の診断結果を踏まえ修正
LCC計算用	3-1	LCC計算情報シート（本体工）	LCC計算システム登録用		打音検査、健全性の診断結果を踏まえ修正
	3-2	LCC計算情報シート（付属施設）	LCC計算システム登録用		打音検査、健全性の診断結果を踏まえ修正

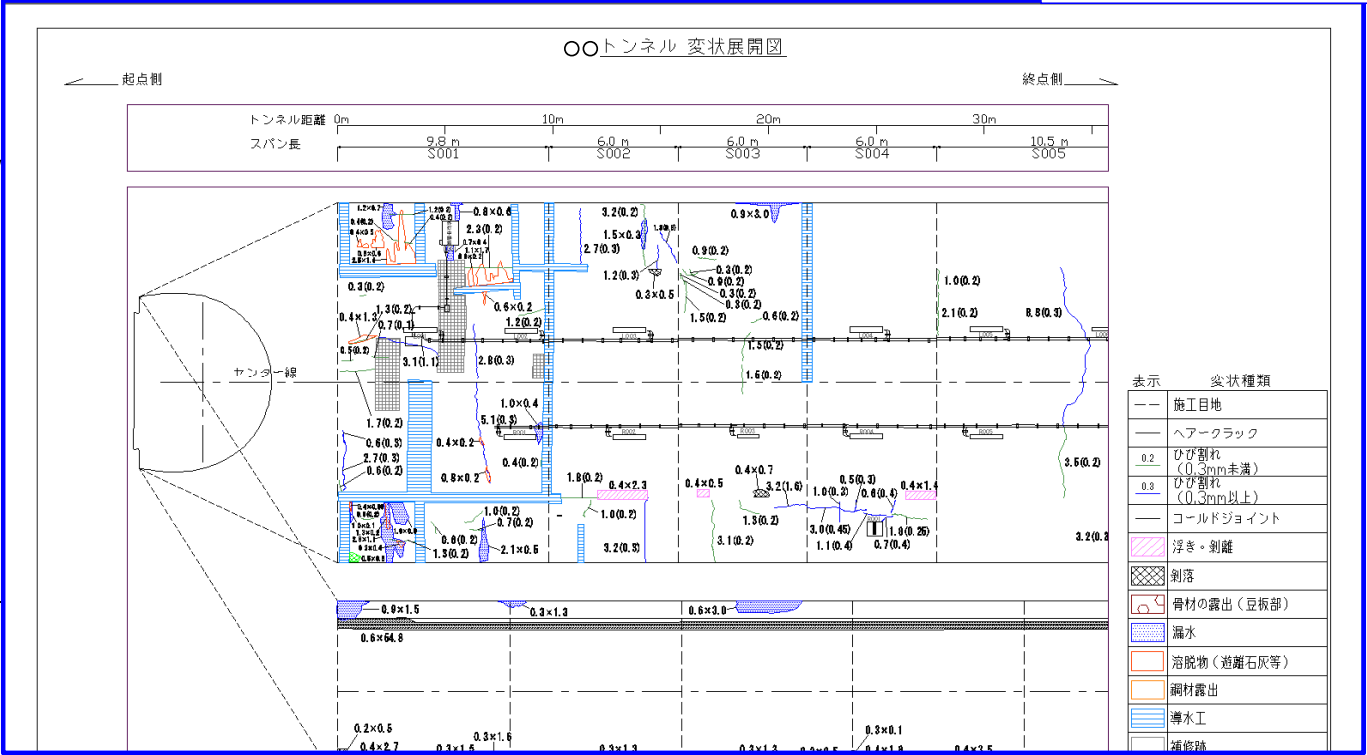
※ 国に報告する様式

作成調書イメージ

トンネル調書		【様式2-4】トンネル全体変状展開図			調製年月日	
フリガナ 名 称	〇〇トンネル	路線名	国道〇〇号	点検業者・点検者名	点検年月日	
	〇〇トンネル	管理者名	〇〇建設事務所	調査業者・調査技術者名	調査年月日	

トンネル全体変状展開図

【サンプル】
青枠のCADデータを作成



トンネル変状展開図

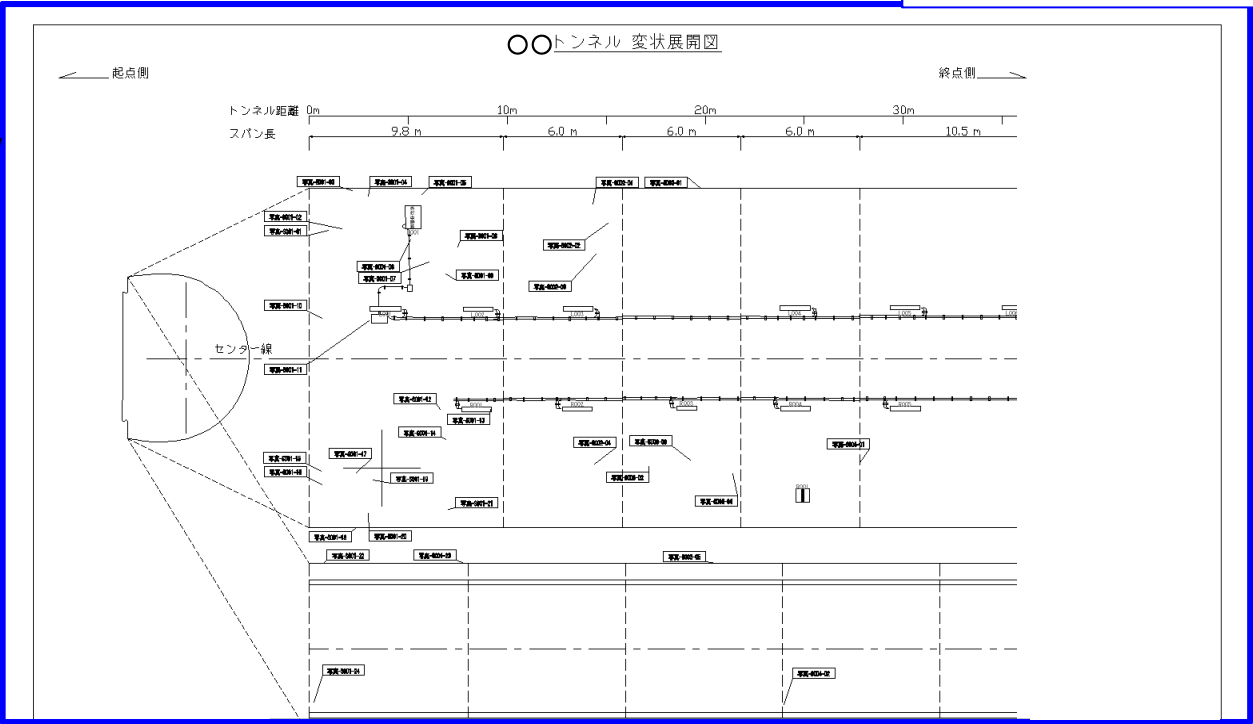
従来点検業務でCAD編集後に
様式2-4(エクセル)に張り付け

定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図

フリガナ 名 称												トンネルID											
所在地		自		〇〇		定期点検業者				定期点検年月日		緊急輸送道路		有									
		至		〇〇		定期点検者名						代替路の有無		無									
起 点		緯度		〇〇		変状・異常箇所数合計		トンネル本体工		材質劣化		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ		トンネル毎の健全性		附属物の取付状態		○ (応急措置後)	
		経度		〇〇						漏水		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ						×	
終 点		緯度		〇〇		外力		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ											
		経度		〇〇																			

【サンプル】
青枠のCADデータを作成

従来点検業務でCAD編集後に
様式2-5(エクセル)に張り付け



※1 トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するもの
※2 本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて
※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分
※4 附属物の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番

■定期点検記録様式 変状写真台帳

フリガナ 名 称		〇〇トンネル		路線名	国道〇〇号		定期点検業者	〇〇		定期点検年月日	〇〇〇〇/〇〇/〇〇
		〇〇トンネル		管理者名	〇〇建設事務所		定期点検者名	〇〇			
写真 番号	覆工 スパン 番号	S2		写真 番号	覆工 スパン 番号	S2		写真 番号	覆工 スパン 番号	S2	
	変状 番号	1			変状 番号	2			変状 番号	2	
変状 部位	対象 箇所	覆工・坑門		変状 部位	対象 箇所	覆工・坑門		変状 部位	対象 箇所	覆工・坑門	
	部位 区分	側壁(左側)			部位 区分	側壁(左側)			部位 区分	側壁(左側)	
変状区分		漏水		変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		漏水		変状種類		ひび割れ		変状種類		ひび割れ	
健全性	応急措置前	Ⅲ		健全性	応急措置前	Ⅱ		健全性	応急措置前	Ⅱ	
	応急措置後				応急措置後				応急措置後		
変状の発生範囲の規模		0.45㎡ 縦1.5m×横0.3m		変状の発生範囲の規模		1.44㎡ 縦1.44m×横1.1m		変状の発生範囲の規模		1.44㎡ 縦1.44m×横1.1m	
前回定期点検時の状態				前回定期点検時の状態				前回定期点検時の状態			
調査方針				調査方針				調査方針			
対策履歴				対策履歴				対策履歴			
実施状況(実施日)				実施状況(実施日)				実施状況(実施日)			
メモ				メモ		Ⅱb判定		メモ			
写真 番号	覆工 スパン 番号	S2		写真 番号	覆工 スパン 番号	S2		写真 番号	覆工 スパン 番号	S2	
	変状 番号	3			変状 番号	4			変状 番号	4	
変状 部位	対象 箇所	覆工・坑門		変状 部位	対象 箇所	覆工・坑門		変状 部位	対象 箇所	覆工・坑門	
	部位 区分	アーチ(左側)			部位 区分	側壁(左側)			部位 区分	側壁(左側)	
変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化		変状区分		材質劣化	
変状種類		うき・はく離		変状種類		うき・はく離		変状種類		うき・はく離	
健全性	応急措置前	Ⅱ		健全性	応急措置前			健全性	応急措置前		
	応急措置後				応急措置後				応急措置後		
変状の発生範囲の規模		0.15㎡ 縦0.3m×横0.5m		変状の発生範囲の規模		0.92㎡ 縦0.4m×横2.3m		変状の発生範囲の規模		0.92㎡ 縦0.4m×横2.3m	
前回定期点検時の状態				前回定期点検時の状態				前回定期点検時の状態			
調査方針				調査方針				調査方針			
対策履歴				対策履歴				対策履歴			
実施状況(実施日)				実施状況(実施日)				実施状況(実施日)			
メモ		目地部からの漏水、滴水、Ⅱb		メモ				メモ			

※ 健全性(応急措置後)の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。

※ たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※ 附属物の取付状態に関する異常写真は様式2-7でとりまとめること。

※ 変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※ 応急措置を実施しないで判定した変状の健全性は、健全性の応急措置後の欄に記入すること。

※ 健全性Ⅱの場合は、メモ欄にⅡa、Ⅱbの対策区分を明記すること

※ 変状の発生範囲の規模の記入方法の詳細は、様式2-6記入上の注意点を参照

